熊本地域医療センターだより

当院ＨＰはこちらから

院長　杉田裕樹　　令和３年(2021年)　３月発行

熊本地域医療センター電話番号(代表) 096-363-3311　FAX 096-362-0222

〒860-0811　熊本市中央区本荘5丁目16番10号　https://www.krmc2.org

2021 4月号　通算191号

熊本地域医療センター　理　念

かかってよかった。
紹介してよかった。
働いてよかった。
そんな病院をめざします。

contents

新年度のご挨拶…… P1～2
日本医師会生涯教育講座…… P2
退任挨拶…… P3～4

新年度のご挨拶

院長　杉田（すぎた）　裕樹（ひろき）

平素より大変お世話になっております。

令和３年度が始まりました。昨年度を振り返ってみますと、年度早々に当センターは新型コロナウイルス第１波の大波をまともに受けた形となりました。具体的には４月から５月にかけて新型コロナウイルス院内感染のため、大幅な診療制限を余儀なくされ、患者さんや医師会員の先生方、市内の基幹病院等に多大なご迷惑をかけてしまいました。しかしクラスターとはならず、患者さんへの感染は確認されずに終息に至り、感染した計４名の職員は全員仕事に復帰ができましたことは幸いでした。新型コロナウイルスの院内感染が起きたことは残念ですが、職員の日頃からの患者さんへの感染対策の徹底が功を奏したとも言えるのではないかと思います。また、一時的に風評被害を病院として、また職員個々が受ける事態となりましたが、その後風評被害は収まり、８月以降新規患者紹介、入院患者数、外来患者数（平日日勤帯）が例年並みへと回復して参りました事は医師会員の先生方をはじめ多くの皆様に感謝申し上げます。

昨年１年間で新型コロナ感染症大流行により変化を余儀なくされたことがいくつかありました。

まず、休日夜間急患センター受診者が前年度の約１／３程度まで激減してしまいました。これは不要不急の受診が減少したことや新型コロナ以外の感染症が減少したことが原因と考えられます。また、新型コロナの影響で内科協力医の確保が以前にも増して困難となりました。患者数減少および協力医確保困難から昨年10月より内科・外科の深夜帯は休止するという事態となり、この状況は現在も続いております。これについてはコロナ禍が終息しても元には戻らない可能性があります。2024年までに達成すべき医師の働き方改革、協力医の高齢化などから協力医確保が益々困難になるであろう事も考えると当センター開設当初から40年もの間熊本方式として行って来ました休日夜間急患センターの先行きはどうあるべきか考えなくてはならない重要な局面です。

次に当センターは、昨年４月から病院建築の設計を開始する予定だったのですが、新型コロナ感染症大流行によりこれが完全に中断した状態です。当センター本館は昭和56年開院時の建築物で、外来、放射線検査室、臨床検査室、４つの病棟、手術室等当センターの大部分の機能が存在するものですが、老朽化が著しいためにできるだけ早い建て替えが必要なことは誰もが認識している事と思います。新型コロナ感染症が落ち着く様であれば、病院建築が再開できると思いますが、それがいつ頃になるのか現時点での予測は困難です。とにかくワクチンが鍵になると思いますが、その迅速な接種と効果に期待したいと思います。

また当センター主催の地域医療センター勉強会、医師会生涯教育講座などは感染拡大防止のためすべてオンライン開催といたしました。オンライン開催は出席しやすいというメリットがあるかと思いますが、コンピューターに慣れておられない先生方には大変ご不自由をおかけしております。それに加えて直接顔を合わせて質疑応答するなどのコミュニケーションが取り難くなってしまいました。地域連携の会や出動協力医総会などもことごとく中止や書面開催となり、医師会員の先生方との交流の機会が激減し直接お会いしてご意見を賜る機会を失ってしまっ

ていることにつきましても大変残念に思っております。しかしながら、これからは積極的にオンラインを有効利用して発信・コミュニケーションしていかなくてはいけない様な時代でもあると思っております。

いずれにしましても新型コロナウイルス大流行による社会／医療の大きな変化に臨機応変に対応してゆく必要があります。

一方現在の電子カルテシステム（富士通）は2013年11月に導入されて８年目を迎え、本年度は電子カルテシステム更新の時期でしたが、本年11月より富士通からソフトウェアサービス（SSI）という会社の新規システムに変更し導入することが決定いたしました。これにつきましてはコロナ禍でも待ったなしというところです。

本年２月17日から日本でようやく新型コロナワクチンの接種が開始となり、３月12日からは当センター職員のワクチン接種も始まりました。４月中旬には高齢者から始まる一般の方へのワクチン接種が開始となる予定であり、当センターにおきましても癌治療等で通院中の患者さんで希望される場合には接種を予定しております。新型コロナウイルス大流行はそう簡単には終息しないとの見方がありますが、今年度中には落ち着いて欲しいと願っております。

当センターはこれからも医師会員のバックアップ病院として、救急医療および高度医療を行い、病院理念の下に「なくてはならない病院」であり続けたいと思います。そしてこれからも皆様のご期待に応えられるよう職員一丸となって努力して参ります。

本年度もどうぞよろしくお願い申し上げます。

日本医師会生涯教育講座

「膵癌の化学療法」

消化器内科部長　田村（たむら）　文雄（ふみお）

平素より熊本地域医療センターをご利用いただき、ありがとうございます。2020年12月12日土曜午後に生涯教育講座として講演をさせていただきましたが、コロナ禍の開催ということで当院でははじめてオンライン配信という形で行われました。今回は「膵癌」をテーマとして開催され、私は内科の立場で主に「切除不能膵癌の抗がん剤化学療法」についてお話をさせていただきました。膵癌は今でも予後不良であり、リスクファクターとして(1)家族歴 (2)遺伝性 (3)糖尿病や慢性膵炎などの生活習慣病 (4)酒、タバコなどが上げられています。また、2016年に膵癌取扱い規約が大幅改定に行われ、stage 分類も様変わりし、切除可能性分類の導入がなされています。

膵癌の抗がん剤化学療法も2000年代に入り、ゲムシタビンの採用から始まり新規抗がん剤が導入されてから、徐々に延命効果を来しています。2010年から2019年までの10年間で切除不能膵癌176例に対して行われた抗がん剤治療や放射線治療について当院の成績を調査しました。結果、最近では切除不能膵癌の予後は約１年間まで伸びており、10年前と比較すると約５ヶ月も伸びております。まれに長期生存もあり、諦めずに治療継続を行うことが重要と思われます。また、膵癌においても免疫チェックポイント阻害剤が使用できるようになってきていますが、適応症例がまだ限られており、もうしばらく時間がかかりそうです。膵癌に限らずお困りの患者様がおられましたら、当院へのご連絡・ご紹介よろしくお願いいたします。

外来化学療法室（コロナ禍対応）

「当院の膵臓手術におけるパラダイムシフト」

嘱託　廣田（ひろた）　昌彦（まさひこ）

1）メソパンクレアスの重要性とその完全郭清を追求した No-touch TMPE 手術、2）主膵管近接の腫瘍に対する主膵管温存手術、3）Vater 乳頭近接の腫瘍に対する乳頭温存手術、をイラストや写真・動画を駆使して紹介しました。上腸間膜静脈合併切除後の非再建例、体外での膵腸吻合法、経皮経瘻孔的主膵管カニュレーション、などは『見たことない物』だったのではないでしょうか。

当日は取り上げませんでしたが、患者さんへの説明に使える『膵癌豆知識：30% の法則』をお伝えします。一つ目は治療に関してです。一般的に、膵癌と診断された患者さんは切除術可能な率が30%、その内治る率が30% です。全体的には治る率が９% ということになります。二つ目は手術後の再発部位についてです。局所再発だけが30%、肝転移再発だけが30%、局所再発＋肝転移再発が30%、その他が10% です。今後とも宜しくお願い申し上げます。

退任挨拶

脳神経外科部長

北村（きたむら）　伊佐雄（いさお）

お世話になりました。2021年３月31日にて退職させていただくことになりました。熊本地域医療センターは２回目の退職となります。１回目は1997年４月より３年間勤務しました。当時2000年問題というものあり、医療機器が誤作動するとのことで、年越しを病院で迎えましたが、特に何も起こらず安心したことを憶えております。２回目はご縁あり2012年４月に赴任いたしました。退職にあたり感謝の気持ちでいっぱいですが、在任中脳外科医としてまだいろいろな事ができたのではという反省の気持ちもあります。私は今まで、たくさんの病院で勤務してきましたが、いつも退職するとその病院が新しく建て替わるということがよくあり、2000年に退職後、熊本地域医療センターは新館病棟ができました。今回も素敵な新病院ができると確信しております。

外科部長

富安（とみやす）　真二朗（しんじろう）

2019年４月より再赴任し、今回は骨を埋めるつもりで頑張っていましたが、非常に残念なことに２年間でまた異動となりました。

コロナ禍で十分なご挨拶が行えず申し訳ありません。医師会の先生方からたくさんの患者さんのご紹介を頂き、前回赴任時より肝・胆・膵癌の外科手術、内視鏡外科手術、化学療法をレベルアップして提供できたことは自負しております。

今回は部長としての赴任でしたので、杉田院長と外科診療や病院全体のマネージメントを積極的に行いました。病院建て替えには現在の利便性に優れた病院から質の高い医療の提供が必須と考え、今までの慣習にとらわれず新しいことを取り入れ、病院をよりよい方向に変革するように努めました。病院の質の向上のため最近の大腸癌の予後調査や胆嚢炎・虫垂炎のデータベース化、クリニカルパスの見直し・簡素化や消化器癌のすべてのレジメンの同意書作成、抗がん剤などの認可後即時申請の道筋をつけました。また病院経営やコスト意識を強く持ち、ガーゼ交換時のルーチンの消毒廃止、術後インスピロン廃止、使用期限が迫った廃棄寸前の物品を積極的に使用しました。新しい試みとして、HCU で高侵襲外科手術後の A ライン導入、外来で術前 IC 導入、働き方改革として長時間手術時の交代医の設定や当直医の翌朝帰宅の提案などたくさんの変革を行いました。

４月より済生会熊本病院に異動となりますが、医師会員は継続致しますので、また熊本地域医療センターで働けますように精進を重ねていく所存です。２年間ご指導ご鞭撻を賜り有難うございました。

消化器内科　胃腸内科医長

山之内（やまのうち）　健伯（たけのり）

2007年４月から14年間、熊本地域医療センターで勤務させていただきました。皆様に助けていただき、在任中は大過なく過ごす事ができました。長い間、ありがとうございました。

カンファレンスやコンサルトを待たずに、他科の先生へ個人的に相談でき、とても働きやすい病院であったと感じています。

緊急手術など、いつも迅速に対応して頂いた外科の先生、読影でお世話になった放射線科の先生、私の拙いコンサルトも対応して頂いた他科の先生、本当に感謝しています。スタッフの方々にも暖かく接していただき、サポートも沢山あり、大変助かりました。

熊本地域医療センターで学んだことを次の勤務先でも活かして、微力ながら地域医療に貢献させていただきたいと思っています。

末筆ではございますが、改めて皆様のご厚情に深謝すると共に、皆様のご多幸とご健勝をお祈り申し上げます。

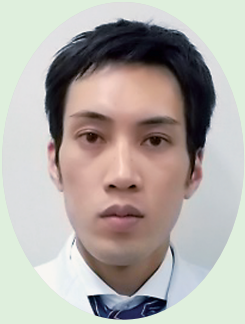
退任挨拶

糖尿病代謝内科医長

狩場（かりば）　宏美（ひろみ）

2015年から地域医療センター糖尿病代謝内科で勤務させていただきました。気づけば６年が経過しており、私の医者人生におきましては（まだまだ未熟ですが）、今までで一番長くいた病院になりました。当科は糖尿病患者さんの教育入院に加え、他科入院中の方に併診という形で関わる機会が多いため、内科・外科・緩和ケアの全病棟を周りますが、皆さんには大変よくしていただきました。また外来スタッフには平常時の診察に加え、当直業務、救急車対応においてもお世話になりました。医局は診療科同士の垣根がなく、とても相談しやすい状況で、先生方に色々なことを教えていただきました。内科医師としても様々な経験をして、少し成長できたかな？と思います。ありがとうございました。

最後の１年はコロナ禍で、以前とは異なる日々になってしまいました。診療体制も若干変わり、ソーシャルディスタンスが必要となったために親栄会のイベントなどで親睦を深めることができず、寂しい期間でした。もうしばらくは我慢の日々が続くことと思いますが、いつの日かまた、皆さんと集まれたら嬉しいです。４月からは熊本中央病院で勤務します。今後ともよろしくお願い致します。



外科

髙城（たき）　克暢（かつのぶ）

2017年４月から４年間勤務させていただきました。他院で経験できないような難しい手術を数多く執刀させていただきました。まだまだ未熟ではありますが、一人前の外科医に少しだけ近づくことができたのかなと思います。熊本地域医療センターは診療科どうしの垣根が低く、他科の先生に気軽に相談することができました。コメディカルスタッフも優しい方々ばかりで、とても働きやすかったです。親栄会の宴会で親睦を深めたこと、旅行で台湾に行ったことなど、たくさんの楽しい思い出があります。今年１年間は新型コロナウイルス感染拡大の影響で宴会なども一切なく、職員の皆さんの中には医療従事者であることで差別を受けたりした方もおられ、多大なストレスを抱えられたことと思います。今後ワクチン接種が進み、１日も早く元の平穏な日常を取り戻すことができるように願っています。４月からはくまもと県北病院へ異動になります。熊本地域医療センターで培った経験を活かし、県北地域の医療に貢献できるよう励んで参ります。数年後にまたお世話になることがあるかもしれません。熊本地域医療センターの今後益々のご発展をお祈りいたします。４年間どうもありがとうございました。

熊本地域医療センター勉強会のお知らせ

日時／2021年4月26日（月）19：00～20：00

形式／ハイブリット方式　オンライン参加 or 会場参加

オンライン参加：ZOOM　　会場参加：２階多目的ルーム

※会場参加を希望される方は、事前に申し込みください。人数制限によりご案内できない場合がございます。
※申し込み案内は熊本市医師会ニュースにてお知らせいたします。
※予定が変更になる場合がありますのでご注意ください。

①症例報告

「著名な膵管拡張をきたし十二指腸に穿破した膵管内乳頭粘液性腫瘍の1例（仮）」

消化器内科　佐々木 大尭 医師

②特別講義

「COVID-19　当院での診療と最近の話題」

CC８：感染対策

呼吸器内科　藤井 慎嗣 医師

熊本地域医療センター

■医師へ直接紹介される方はこちら
☎096-363-3311（代表）

■何科に紹介するか迷っている場合はこちら
※ベテラン看護師が対応いたします！
（平日9:00~17:00）☎096-372-0600

■画像診断・内視鏡などの検査予約はこちら（連携室）
☎096-366-1323

編集後記

Y　新年度を迎えるにあたり杉田院長のご挨拶並びに、当院の得意とする膵癌をテーマとした生涯教育講座の記事を掲載しました。コロナ禍でも診療を続けられるのは、患者さんをご紹介いただく先生方のおかげだと改めて感謝申し上げます。

K　４月号をお届けするころには、桜は満開を過ぎていることでしょう。別れと出会いの季節。当センターだけでなく、退職される皆さん、いろんな思い出がたくさんおありのことでしょう。お疲れ様でした。また、入職される皆さん、気持ちを新たに頑張っていきましょう！

H　気が付けばいつの間にか新年度を迎えていました。昨年同様、退職される皆さんの送別会が開催できず寂しい限りです。また、新入職員歓迎会等の開催も難しいため、院内で皆さんと関わる際のコミュニケーションを大切にしていきたいです。